

連載 会社の流儀 ⑥18



飛田 浩志 社長

国 立社会保障・人口問題研究所によると、高齢者人口は来年には4人に1人、2035年には3人に1人にもなる。自分や家族が要介護状態になってしまったら家計は大打撃を受ける。自宅のバリアフリー工事やホームヘルパーの費用、民間の老人ホームや介護施設の高額な入居一時金などが必要なためだ。

そんな中、今月発売を開始する少額短期保険（08年4月に導入された保険金額が少額、保険期間1〜2年以内の保険の引受のみを行う事業）の新商品に注目が集まっている。公的介護保険を補う私的介護保険とも言える「生きるんじゃ!（生命定期保険）」だ。要介護状態4または5の状態になったとき、または身体に障害（労災障害等級2級か1級）が残ったとき、あるいは既述に該当せず亡くなったとき保険金が一括で支払われる。

また、公的介護保険では対象にならない39歳以下の人が、同様の要介護状態になった場合でも、保険金を支払う。保険期間は1年間（自動更新により90歳まで継続可能）、加入年齢は20〜84歳だ。保険料は性別・年齢により異なり、60歳女性の場合で・月払保険料2638円（保険金額300万円の場合）である。

「私自身、要介護状態4と認定された実母の介護で、公的介護保険ですべてが賄えるわけではない現実に直面しました。1人でも多くの皆様に、自身や親の介護リスクに備えてほしい」とこう話すのは、同商品の開発・販売元、ブロードマインド少額短期保険株式会社の飛田浩志社長。同社は、多彩な保険商品を取り扱い、共済事業のコンサルティング、保険メーカーの機能も持つ、ブロードマインドの戦略的グループ企業だ。

主力商品には「けんこうプラン（入院保障付生命定期保険）」「いきいきプラン（生命定期保険）」「しあわせプラン（無選択型生命定期保険）」もある。全商品がインターネットを通じて申し込み可能。その手軽さやわかりやすさ、保険料の安さで人気を博している。

「大きな保険会社では、1つの商品を作るには多額の開発費用を賄うだけのマーケット規模が必要。その点、少額短期保険は少人数で運営し、開発費用も抑えられるので、ニッチなニーズに対応できる商品の提供が可能です。大きな保険会社では採算に乗らないニーズを

ブロードマインド少額短期保険

公的介護保険だけで大丈夫？ 生きるための保険「生きるんじゃ!」

（東京）

全滅状態になっても、
からだが障害を嘆いても、
生きるんじゃ!
(生命定期保険)

生きるための保険「生きるんじゃ!」
あなたの生きるチカラをサポートします。

「生きるんじゃ!」パンフレット表紙

大手では提供できない時代に見合う商品提供を

満たすエッジの効いた商品の開発をしていきたい」と、話す飛田社長。誰もが歳をとり迎える老後生活。要介護の親を抱えたと

大きな経済的・身体的負担は大きい。一方、自らが要介護になったときの備えも考えておきたい。いざというとき困らないように、早めの決断を薦める。 (有)

【会社データ】

本社 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5 JR恵比寿ビル7F
☎ 03-6859-8367
設立 2007年3月
事業内容 少額短期保険業
関東財務局長（少額短期保険）第15号
<http://www.d-mind.com/insurance>